



地域が守る 安心して暮らせる 安全なまち

頻発する自然災害

昨年5月の中国四川大地震、同じく6月の岩手・宮城内陸地震をはじめ、一昨年の能登半島地震や新潟県中越沖地震など、住民の生命や財産を奪ってしまうような地震災害が、近年頻発しています。また、先月発生したイタリア地震も記憶に新しいところです。

地震以外にも、昨年8月には、岡崎市において県内の観測史上最多となる時間雨量(1時間雨量146.5ミリ)を記録し、豊橋市でも、いわゆる「ゲリラ豪雨」が大きな被害を与えるなど、予想が難しい突発的・局所的な豪雨災害が各地で発生し、あらためて自然災害の脅威を感じた方も多いのではないのでしょうか。

いつ・なにが・どの程度

幸い、近年は田原市で目立った自然災害は起きていませんが、「いつ発生してもおかしくない」といわれる東海地震・東南海地震や、台風による暴風・大雨、高潮などの被害が心配されます。問題は、「いつ・なにが・どの程度」発生するか予想できないことです。そのため、私たちは日ごろから個人や地域全体の共通認識のもと、防災・減災に関する行動や備えに努める必要があります。

重要度を増す自主防災会

田原市では、市内すべての地区に自主防災会が組織(103組織・平成21年3月末現在)されており、それぞ

田原市では、『田原市総合計画』に掲げる「安心安全」なまちづくりの実現のために、各校区や各地区の自主防災会と連携し、防災対策の強化を進めています。災害が発生したとき、まず重要なことは、家族や隣近所、自主防災会が中心となり実施する安否確認や人命救助です。ここでは、自主防災会の活動事例をご紹介します。市民の皆さんに担っていただく役割について、一緒に考えていきたいと思えます。▼防災対策課 ☎23局3548

れが地域の地勢や実情に合わせ、さまざまな取り組みを行っています。

市内の自主防災会を取りまとめている「田原市自主防災活動推進協議会」では、平成20年度における「PDC A推進地区」として、田原東部校区(豊島・御殿山)、神戸校区(川岸・漆田一区・漆田二区・漆田三区)、高松校区(高松)、伊良湖校区(伊良湖・日出)の4校区9地区を指定しました。これらの校区や地区では、市民が一体となって取り組む自主防災活動を目指すとともに、市や各自主防災会との連携強化を図っています。

今回は、御殿山地区と神戸校区(川岸・漆田一区・漆田二区・漆田三区)の活動事例をご紹介します。これらのモデル的な取り組みが、先進事例として他の自主防災会に波及することが期待されます。



▲2月22日(日)に赤羽根文化ホールで開催した「防災講演会」では、各PDC A推進地区が成果発表を行いました。

【※】PDC Aとは、プラン(計画)のP、ドゥ(実施)のD、チェック(監視)のC、アクション(改善)のAを表した言葉で、これらを繰り返し、継続的な改善に努めようという取り組みです。